



第49期 株主通信

平成21年4月1日から平成22年3月31日

TAKAMIZ

高松機械工業株式会社

【証券コード6155】

株主の皆様へ



代表取締役社長

高松喜幸志

トップに訊く——The President Talks

中国市場の開拓・拡大に 努めていくとともに 国内の景気回復に対応した 取り組みを強化していきます。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援・ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

第49期の事業環境は、かつてないほどの非常に厳しい状況でスタートしました。各国の経済対策などによって、最終的には持ち直しに転じてきましたが、先行きの不透明さが晴れることはありませんでした。

そのため、主力の工作機械事業においては、ユーザが設備投資を行うことを控えていましたので、工作機械需要はピーク時の半分にも満たない低水準で推移しました。これまで日本は、切削型工作機械生産額において、1982年以降27年間世界一の座についていましたが、2009年暦年ではその座を中国に明け渡し、ドイツに次ぐ3位に転落してしまいました。

今、中国では工作機械の需要が高まってきています。日本工作機械工業会の地域別受注先を見ても中国向けの拡大が大きく、今後の重要性を感じますので、中国市場の開拓・拡大は、当社グループが成長を遂げていくためにも大き

なポイントとなってきております。

中国には現地生産を行っている杭州友嘉高松機械有限公司があります。さらに現在、中国現地法人の設立も検討しております。グループ全体の連携を強化し、これまでメインユーザであった日系企業にとどまらず、現地企業向けの販売を増やしていくことを計画しています。

一方、国内におきましても、工作機械の需要はいまだ低水準であるものの、国内景気が持ち直してきていることから、受注回復に向かう動きがうかがわれます。そこで当社グループでは、変化に対応した生産活動を進めていくとともに、ユーザーニーズに応えるソリューション提案を推進します。

工作機械業界の先行きは、まだ不明瞭さが拭えません。しかし、工作機械は「マザーマシン」といわれるようにモノづくりの基幹を支えており、経済成長において欠かせない機械であることから、必ず需要が回復してくると見ております。当社グループでは、マーケットニーズ、ユーザーニーズを捉えた企業活動を展開していく所存でありますので、今後も変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Q.

第49期で行ってきた 取り組みについて お聞かせ下さい。

A.

第49期では、厳しい経済情勢における中で受注を確保するために、提案型営業の推進によって需要の掘り起こしをはかるとともに、ユーザ密着型の営業活動に注力してきました。また、中国現地子会社との連携強化による中国市場対応や、ヨーロッパ子会社との連携によるヨーロッパ新規ディーラの開拓などの海外販売チャネル拡大をはかってきました。

新製品として「X-S700」および「XC-100」を開発し、販売開始しました。「X-S700」はこれまで当社にはなかったタイプであり、当該製品が得意とするシャフト加工は競合他社が少ないことから、また「XC-100」は6インチ旋盤で世界最小クラスを実現させ、ユーザの生産性向上に寄与することから、ともにユーザ・ディーラの高い評価をいただき、受注件数を増やしてきました。

国内企業の中には希望退職制度の実施などによる人員整理を実施した企業もありましたが、当社では正社員の雇用維持を基本とし、年初より残業の抑制、一時帰休、役員報酬および一部従業員給与の削減によって固定費削減をはかってきました。

他にも収益改善のために、原価低減プロジェクトチームによる活動を推進し、開発

段階からの原価低減をはかるなど、コスト・経費の削減に取り組んできました。

また、ユーザの在庫調整が進み、スポット受注が大勢を占めてV字回復には至らなかったものの、最悪期を脱して底打ちをしたことから、一時帰休の実施中においても生産ラインにおいてシフトを組むことにより、工場の稼働を止めることなくユーザ対応をはかってきました。



「X-S700」



「XC-100」

液晶や半導体の製造に関係する機械の製造を行っているIT関連製造装置事業では、営業活動を強化し、将来的な事業規模の成長に向けて、医療分野などの

新規分野開拓をはかってきました。また、市場に回復の兆しが見え始めた半導体業界に積極的な営業アプローチを展開することで受注案件を増やし、生産に対応してきました。

自動車部品加工事業では、自動車業界において、一部車種で生産量が増加しつつも、全体的には需要が低迷している状況にありましたが、当社では安定生産・安定供給を継続して行うことで生産高を確保し、営業活動を積極的に進めることで新規受注の確保に取り組んできました。

Q. 第49期の業績結果を教えてください。

A. 第49期は、工作機械受注高42億66百万円(前年同期比30.7%減)、売上高44億51百万円(同64.1%減)、営業損失17億37百万円(前年同期は3億82百万円の営業利益)、経常損失14億95百万円(前年同期は4億34百万円の経常利益)となりました。また、特別損失として減損損失を計上したことや繰延税金資産を取崩したことにより、当期純損失が13億99百万円(前年同期は1億83百万円の当期純利益)となり、第34期(平成6年度)以来、15期ぶりの当期純損失となりました。

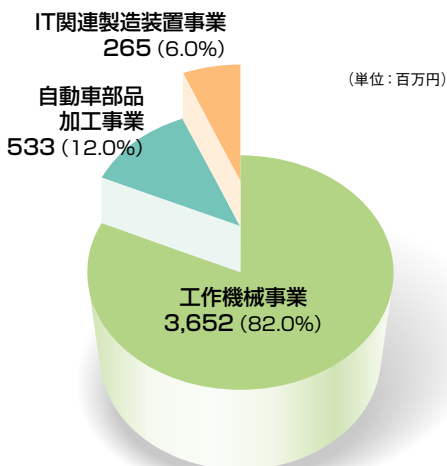
事業別で見ますと、工作機械事業では、低い受注水準の影響によって売上高が36億52百万円(前年同期比67.5%減)となり、

その内訳は、内需26億95百万円(同63.5%減)、外需9億57百万円(同75.1%減)、外需比率26.2%であります。また、営業損失が16億55百万円(前年同期は4億56百万円の営業利益)となりました。

IT関連製造装置事業では、売上高が2億65百万円(前年同期比52.1%減)にとどまり、売上高の大幅な減少によって固定費を吸収できなかったことで、営業損失が58百万円(前年同期は57百万円の営業損失)となりました。

自動車部品加工事業では、自動車生産台数減少の影響を受けて、売上高が5億33百万円(前年同期比14.0%減)に減少し、営業損失が22百万円(前年同期は16百万円の営業損失)となりました。

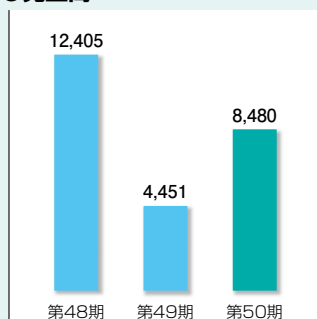
■セグメント別売上高構成比



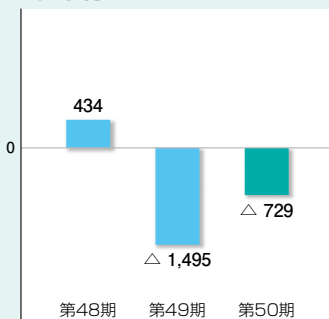
■第50期の連結業績見込み

(単位:百万円)

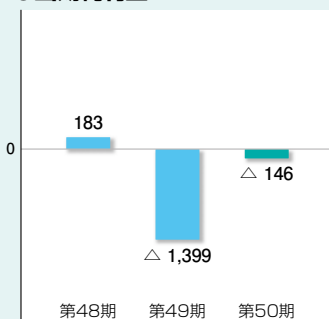
●売上高



●経常利益



●当期純利益



Q. 第50期の見通しについてお聞かせ下さい。

A. 世界経済においては、新興国を中心に回復を続け、日本経済も輸出がけん引役となって緩やかな回復基調を維持していくことが見込まれています。しかし、内需の回復見通しに不透明さが残り、また、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念もあることから、景気下振れリスクが払拭されないと見られています。

工作機械業界においても、アジアを中心とする外需がけん引役となって需要回復が進んでいくと思われますが、内需では先行き見通しが不透明であるため、企業の設備投資が盛り上がらないまま推移する懸念があります。2010年暦年の工作機械受注見通しは6,000～6,500億円と2009年暦年の約1.5倍ながらも、まだ1兆円に届かない低い水準で収まると見られております。

このように、懸念材料が払拭されず、主力事業であります工作機械業界では本格的な回復に向かわないとの見込みから、第50期の売上高は84億80百万円を見込んでおります。このため固定費を吸収しきれず、営業損失8億5百万円、経常損失7億29百万円、当期純損失1億46百万円を見込んでおります。

Q.

けん引役が見込まれる 外需をどのように 増加させていきますか？

A.

当社グループでは、外需増加のために、まずは中国市場への積極的な参入をはかっていきます。海外市場の中では、特に中国が成長を続けており、政府景気対策の恩恵を受ける中国ローカルユーザが中心となって工作機械需要のけん引役となっていますので、現地法人の設立による営業力の強化を検討しています。現地法人の営業員として、日本でトレーニングを積んだ中国人を充て、現地の言葉で製品性能などの利点をアピールすることにより、これまであまり取引のなかった中国ローカルユーザからの受注獲得をはかります。

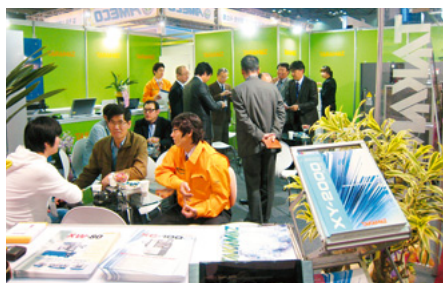
また、当社グループの一員である杭州友嘉高松機械有限公司との連携をはかることにより、現地のサービス・サポート体制を強化していきます。

その他の地域ではBRICsに代表される新興国を注視しており、新規ディーラ開拓によって販売網を拡大していくほか、インドにおいてはサービス担当の現地駐在員の配置を検討していくなど、各地域に対応した方策を執っていきます。

ヨーロッパでも新規ディーラの開拓を進め、これまで当社グループが進出していなかった国々に販売、サービス・メンテナンス体制を整え、販売ネットワークの拡大をは

かります。

ユーザに当社グループ製品を選んでいただくためには、直接見て、触って、その性能を知ってもらうことが大切だと考えておりますので、海外の主要展示会への出展や、プライベート・ショーの開催も行っていきます。第50期では、4月に韓国で行われたSIMTOS2010へ出展したほか、タイ現地子会社でのプライベート・ショー開催予定や、シカゴで行われるIMTS2010(9月)に出展予定など、積極的に製品をアピールしていきます。



SIMTOS2010(韓国)

Q.

その他の取り組みに ついて教えてください。

A.

国内においては、国内景気の回復を受注回復につなげていくために、ユーザニーズに応えるソリューション提案を推進します。国内ユーザは、コスト削減をはかるために、省人化や生産効率を重視されています。そこで、当社が得意とする自動化システムやそのノウハウをもって提案型営業を行っていきます。また、省スペース化

によって単位面積当たりの生産性を向上させた製品や省エネを推進した環境製品などをユーザ・ディーラに対して積極的にプレゼンテーションしていきます。

研究開発では、マーケットニーズを適切に捉えて各国・地域ニーズに応え、かつ競争力を持った新製品のタイムリーな提供をはかっていきます。

利益の確保に対しましては、効率的な生産管理やグローバル最適調達の実施などによって、原価低減・コスト削減に努めています。

IT関連製造装置事業では、市場の環境変化に対応した生産・進捗管理を行っていくとともに、高品質の製品を提供していくことで売上高の確保に努めていくほか、引き続き新規分野からの受注をはかって積極的な営業活動を推進し、新規開拓をはかります。

自動車部品加工事業では、積極的な営業活動によって新規受注の確保に努めていくとともに、新規取引先の開拓も進め、事業規模の拡大をはかっていきます。また、顧客満足度向上およびコスト削減のために、品質管理体制を強化することによって不良品の流出や再発を防止していきます。

推移してきた結果、受注高・売上高が大きく低迷し、期首見込みよりも多額の損失を計上することとなりました。当社では利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しておりますが、第49期の配当金につきましては、誠に申し訳ございませんが無配とさせていただきます。

しかし、第50期では復配を予定しています。現時点において、工作機械業界は厳しい状況からの本格的な回復が始まっていませんが、緩やかながら回復傾向にあり、当社の赤字幅が縮小すると見ておりますので、中間配当を2円、期末配当を3円とし、年間5円の配当をさせていただく予定であります。

株主還元の一つとして安定的な配当を行えるように、一刻も早く黒字化をはかるとともに、企業体質の改善・強化に取り組んでいきます。

株主還元策について お聞かせ下さい。

 前述のとおり、当社を取り巻く環境が一年を通じて厳しいままで

SIMTOS2010(韓国)、MEX金沢2010に出展しました



平成22年4月13日～18日に韓国で開催されましたソウル国際工作機械展(SIMTOS)に出展してきました。韓国でも自動車や造船などの製造業が盛んであり、工作機械に対する需要が高く、6日間の開催で延べ7万人を超える来場者がありました。

当社のブースでは製品性能の高さや自動化技術アピールし、引合・受注を獲得してきました。



また国内では、MEX金沢2010に出展しました。MEX金沢は地元石川県にて毎年開催されている機械工業見本市です。今年は平成22年5月20日～22日に開催され、当社はタカマツ製品5機種、グループ製品2機種を展示しました。

昨年に比べ、景気が上向いてきていることから多くの方々が当社ブースに足を運ばれ、省エネ・省スペースを実現している当社の環境製品群に対して高い評価をしていただきました。

門型ベッド研削盤の導入

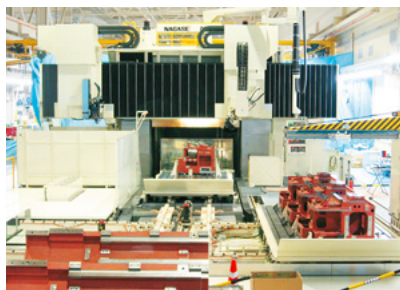
本社工場に新たな設備機械を導入しましたのでご紹介します。

ナガセインテグレックス社製の門型ベッド研削盤は、幅9m、奥行23m、高さ7m、重さ170トンの大型マシニングセンタであります。

当機種は、従来設備よりも2倍の大きさのベッドを加工できるほか、当社オリジナル仕様で設計・製造を依頼したことで、研削に加え切削もできる、他に類を見ないマシニングセンタになっていますので、加工工程の短縮をはかれます。

また、ひねりや歪みを抑える構造になっていることで超精密加工を実現し、これまでよりも高い精度の加工を社内で行うことができます。

平成22年9月より本格稼働を予定していますので、早期の安定稼働に努めていきます。



平成22年度全国ディーラ会議の開催



平成22年5月14日、平成22年度全国ディーラ会議を開催しました。

ディーラ会議とは、当社製品を取り扱う主要販売代理店を招待し、新製品などの当社製品に対する造詣を深めて販売に活かしていただくとともに、販売戦略、新製品開発につながる市場ニーズ・ユーザーニーズを収集・確認する会議であります。

今回の会議でも主力ディーラにお集まりいただき、活発な意見交換ができ、また今後の販売体制について、確かな協力体制を維持することができました。

これからもユーザーに長く愛される新製品を提供していくためにも、マーケティングを欠かさず、ユーザーニーズを捉えた製品、サービス、ソリューションを提案していきます。

杭州友嘉高松機械有限公司の組立工場を移動しました

中国で工作機械を製造しております杭州友嘉高松機械有限公司の組立工場を移動しました。

杭州友嘉高松機械有限公司は、高成長を続けている友嘉グループ(台湾)と合弁で設立した会社です。長年現地生産している台湾企業との共同出資により、カントリーリスクを軽減しつつ市場の参入・拡大をはかっています。

今度の組立工場は空調設備が完備されていることで品質の安定をはかれるとともに、これまでよりも約2割広くなることで、生産量を拡大できます。

中国では工作機械需要が高まっており、大きなビジネスチャンスが広がっています。現地生産でありながら、メイドインジャパンの魂を持った製品を提供していくことで、確かな製品を求めるユーザーへの販売を増加していきます。



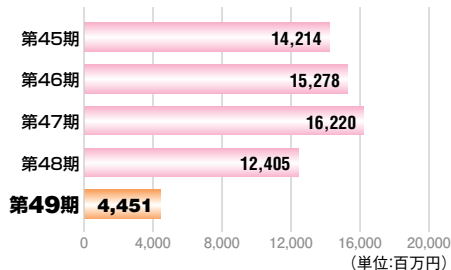
業績の推移

連結業績ハイライト

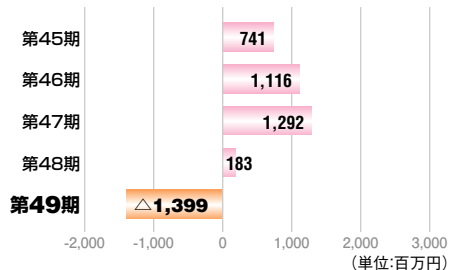
科 目	第45期 (平成17年度)	第46期 (平成18年度)	第47期 (平成19年度)	第48期 (平成20年度)	第49期 (平成21年度)
売上高 (百万円)	14,214	15,278	16,220	12,405	4,451
営業利益又は営業損失(△) (百万円)	1,300	2,031	2,109	382	△ 1,737
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	1,322	2,048	2,193	434	△ 1,495
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	741	1,116	1,292	183	△ 1,399
純資産額 (百万円)	6,108	8,230	9,349	9,234	7,849
総資産額 (百万円)	13,029	15,416	16,184	12,670	11,339
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	74.16	104.36	119.04	17.02	△ 130.56
1株当たり純資産額 (円)	626.75	759.22	858.91	857.72	727.22

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

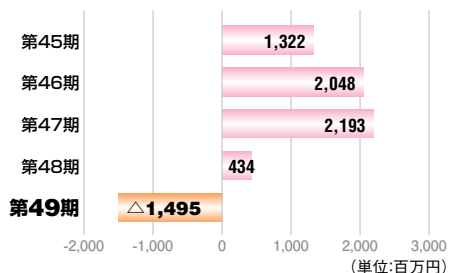
●売上高



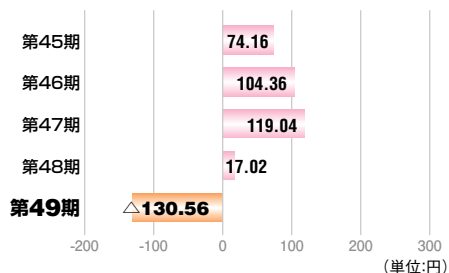
●当期純利益



●経常利益



●1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成21年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成22年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	7,655	6,513
現金及び預金	2,853	2,983
受取手形及び売掛金	2,996	1,709
商品及び製品	240	247
仕掛品	492	688
原材料及び貯蔵品	718	565
繰延税金資産	132	151
その他	224	169
貸倒引当金	△ 3	△ 1
固定資産	5,014	4,825
有形固定資産	4,201	3,834
建物及び構築物	1,248	1,098
機械装置及び運搬具	892	669
工具、器具及び備品	148	126
土地	1,522	1,379
建設仮勘定	389	561
無形固定資産	55	43
のれん	53	41
電話加入権	2	1
投資その他の資産	757	947
投資有価証券	418	446
従業員に対する長期貸付金	2	—
保険積立金	123	135
繰延税金資産	—	326
その他	217	38
貸倒引当金	△ 3	△ 0
資産合計	12,670	11,339

科 目	前連結会計年度 (平成21年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成22年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	2,712	2,760
支払手形及び買掛金	1,940	1,581
短期借入金	478	930
未払法人税等	—	6
賞与引当金	70	85
役員賞与引当金	20	—
製品保証引当金	22	9
その他	181	147
固定負債	723	729
繰延税金負債	0	—
退職給付引当金	463	486
役員退職慰労引当金	226	241
その他	33	0
負債合計	3,436	3,489
(純資産の部)		
株主資本	9,183	7,752
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,833	1,833
利益剰余金	5,637	4,205
自己株式	△ 121	△ 121
評価・換算差額等	9	41
その他有価証券評価差額金	28	56
為替換算調整勘定	△ 19	△ 14
新株予約権	41	54
少数株主持分	0	0
純資産合計	9,234	7,849
負債純資産合計	12,670	11,339

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
売上高	12,405	4,451
売上原価	9,726	4,360
売上総利益	2,679	91
販売費及び一般管理費	2,296	1,829
営業利益又は営業損失(△)	382	△ 1,737
営業外収益	94	247
営業外費用	42	5
経常利益又は経常損失(△)	434	△ 1,495
特別利益	31	18
特別損失	1	209
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	464	△ 1,687
法人税、住民税及び事業税	178	5
法人税等調整額	102	△ 292
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 0	0
当期純利益又は当期純損失(△)	183	△ 1,399

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	410	△ 142
投資活動によるキャッシュ・フロー	470	△ 1,100
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 308	419
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 16	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	556	△ 820
現金及び現金同等物の期首残高	1,159	1,715
現金及び現金同等物の期末残高	1,715	895

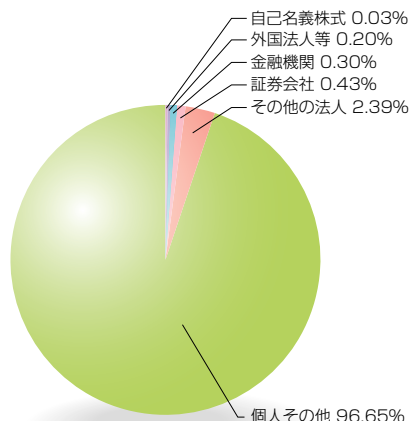
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成22年3月31日現在)

株式の状況

- ①発行可能株式総数……………30,000,000 株
- ②発行済株式総数……………11,020,000 株
- ③1単元の株式数……………100 株
- ④株主数……………3,007 名

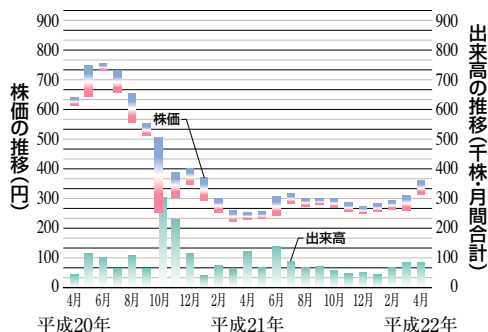
所有者別分布状況



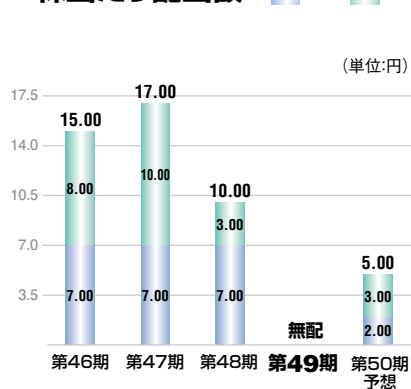
大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	605	5.50
株式会社タカマツ	600	5.44
高松喜与志	517	4.69
日本生命保険相互会社	480	4.36
高松機械工業社員持株会	446	4.05
北国総合リース株式会社	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
三井住友海上火災保険株式会社	408	3.70
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松明毅	332	3.02

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社の概要 (平成22年3月31日現在)

会社概要

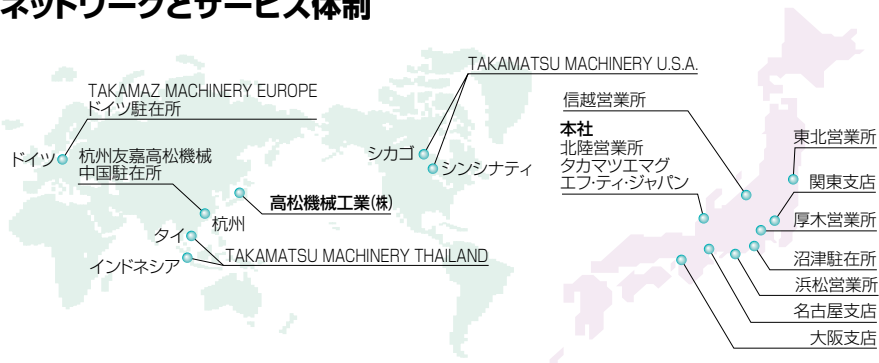
商号	高松機械工業株式会社
設立	昭和36年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	396名
子会社および関連会社	TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン
ホームページアドレス	http://www.takamaz.co.jp

役員

(平成22年6月25日現在)

代表取締役社長	高松喜与志
常務取締役(生産本部担当)	前田充夫
常務取締役(営業本部担当)	中西与平
常務取締役(管理本部担当)	溝口清
取締役(営業本部副本部長兼国内営業部長)	川上友安
取締役(生産本部副本部長兼製造部長)	宮川隆
取締役(営業本部海外営業部長)	徳野穰
取締役(生産本部生産管理部長)	中川進
取締役(管理本部総務人事部長)	高松宗一郎
取締役(社外)	中西祐一
常勤監査役(社外)	砂嶋友和
常勤監査役	池上佳弘
監査役(社外)	鍛冶治敏

ネットワークとサービス体制



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日 (1)定時株主総会 3月31日
(2)期末配当金 3月31日
(3)中間配当金 9月30日
(4)その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 および 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社ホームページに掲載 <http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部
TEL 076-274-1411(直通) FAX 076-274-1418



本社工場(工作機械事業)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW 「XC-100」

徹底した省エネを実現させて、ユーザの生産性向上に寄与する世界最小クラスの6インチ旋盤です。



NEW 「X-S700」

他社にもあまり類を見ない、自動車部品のシャフト加工に特化させた旋盤です。



**ECO
推奨**

「XW-30」

1台で2台分の機能を持ち、省スペース・省エネを実現させた環境対応旋盤です。



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

ホームページ <http://www.takamaz.co.jp>